

# 「日本3.0」

Vol.16

## 昭和、平成とは何だったのか

text by Norihiko Sasaki

文 佐々木 紀彦

天皇陛下の生前退位の日程が決まり、ついに2019年4月30日に平成が終焉することになりました。「ポスト平成」の到来は、昭和、平成との決別を日本に迫ります。

最近、「昭和モデル」、さらには「平成モデル」の陳腐化や崩壊の気配をひしひしと感じます。それが先鋭的に表れているのが「仕事観」です。

過去数十年で言うところ、日本人の仕事観に与える影響がもっとも大きかったのは、リーマンショックや山一証券破

綻です。それに比類する変化、明治維新や戦後復興なみの大変化が訪れるのではないかと読んでいます。

キャリア面における「昭和モデル」を端的に言うところ、右肩上がり、男女完全分業、年功序列、ワーク・アンド・ノースライフです。一方の「平成モデル」とは、長期停滞、男女ほどほど分業、ほどほど年功序列、ワーク・ライフ・バランスです。

「平成モデル」とは「昭和モデル」の劣化版に近い。昭和のいいところも悪いところも破壊したけれども、新しい前向きなモデルを生み出せませんでした。経済のみならず、キャリアと言う面でも、平成は「失われた30年」だったのです。

昭和は今の価値観から見ると、みんなが似た価値観で、男は家庭を顧みず仕事ばかりして、嫌な時代にも見えませんが、昭和はやっぱり偉大でした。私は昭和の最後の10年しか生きていませんが、なんとも楽しい雰囲気漂っていました。

昭和には敗戦という悲劇がありましたが、戦後を生きた人で、昭和が不幸な時代と思っている人はほとんどいないのではないのでしょうか。これだけ国民が団結して、会社と言うコミュニティが結束し、努力すれば結果もばっちり出た。多くの人が結婚できて、家庭を持って、マイカーを持って、小さいながらもマイホームを持てた。これは歴史的な偉業だと思います。

翻って、平成は本当にろくなことがありませんでした。バブル崩壊、冷戦終焉から始まり、経済は低迷が続き、神戸大震災、東日本大震災といった大災害にも見舞われました。宗教心が薄い日本人にとってコミュニティの核だった会社も力を失い、どんどん日本人は孤独になっていくように感じます。

この大きな流れを前提として、「昭和モデル」でも「平成モデル」でもない、「ポスト平成」のかたちを次回以降の連載で考えていきたいと思っています。



### Profile

NewsPicks 編集長

1979年福岡県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業、スタンフォード大学大学院で修士号取得(国際政治経済専攻)。東洋経済新報社で自動車、IT業界などを担当。2012年、「東洋経済オンライン」編集長に就任。リニューアルから4カ月で同サイトをビジネス誌系サイトNo.1に導く。2014年7月から経済ニュースサイト「NewsPicks」の編集長を務める。著書に「米国製エリートは本当にすごいのか?」「5年後、メディアは稼げるか?」がある